

日本映画放送株式会社 第72番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和2年2月18日（火）16時～17時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階  
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 10名 / 出席委員数 9名  
出席委員(順不同・敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・  
鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎  
欠席委員(敬称略) : 田保橋 淳  
放送事業者側出席者：常務取締役 佐藤 信彦  
編成制作部長 小川 英洋  
編成制作部 三宅 歩  
編成制作部 三瓶 祐毅  
編成制作部 宮澤 俊平  
番審担当 堤 靖芳  
清水 明(記)

4. 議題

1. (1) 審議事項：日本映画専門チャンネル オリジナル番組  
「日韓から『家族』を描く 是枝裕和×ポン・ジュノ 完全版」  
(2) 報告事項：時代劇専門チャンネル オリジナル番組  
「最速独占!『神田松之丞講談会 in 大阪松竹座』」

5. 議題 (1) 審議内容

昨年10月に特集「是枝裕和×ポン・ジュノ」の一環として放送した40分の対談を、『パラサイト 半地下の家族』公開記念特集「映画監督 ポン・ジュノ」の一環として、未放送部分を追加し【完全版】としてテレビ初放送した。犯罪で繋がる家族を描いた『万引き家族』で第71回カンヌ国際映画祭のパルムドールを受賞した是枝裕和と、失業家族と裕福な家族との貧富の差を描いた『パラサイト 半地下の家族』で第72回カンヌ国際映画祭のパルムドールを受賞したポン・ジュノ。東アジアのみならず、世界が新作を熱望するふたりの映画監督が、いま何を考えているのかを語り合う。また、『パラサイト』がアカデミー作品賞を含む4部門を受賞したことをうけ、ポン・ジュノ監督の過去作も紹介する緊急編成を行った。

【審議ポイント】

- 是枝監督×ポン監督の対談は視聴者の興味を惹く内容になっていたか。
- 対談や特集をきっかけに邦画だけでなく洋画も含めて編成することについて。

## 6. 議題（1）審議内容

- ・優れた映画監督は、優れた評論家であるというのがよくわかる内容だった。細かなカット割りの指摘など勉強になった。方法は違うが、2人が同じ方向を目指しているのが面白かった。日本映画専門チャンネルという名前通り、基本は日本映画専門であってほしい。
- ・対談番組としては良い内容だったが、「洋画も含めて編成」には反対だ。多チャンネルの低迷原因は、専門性が薄れてきたことだ。洋画が放送されていたら、看板に偽りありでしかなく、一時的には喜ばれるかも知れないが、それが続くことは無いと思っている。
- ・2人の監督が気軽に映画の話をするような演出が良かった。あの対談を見たらポン・ジュノ監督の特集をやってほしいと思うに違いなく、この特集は自然な流れだろう。映画への興味を掻き立てる窓として、このような対談や関連特集があってもいいと思う。
- ・まだアカデミー賞を獲っていない段階で、これを編成したのは先見の明がある。冠にポン・ジュノ監督とつけるなら、特集にもう少し作品がほしかった。アカデミー賞獲得後の対談の続きが見たい。
- ・監督としての2人の違いがよくわかる対談だった。近年は東アジアでキャストやスタッフが国境を越えて映画作りするのも特別なことではない。いろいろな切り口で映画を紹介して良いと思う。
- ・映画とは何か？ 現代社会における映画の役割について考えさせる様々な示唆に富んでいた。圧巻は誰が誰にパラサイトしているのか？ という是枝監督からの問題提起で始まる二つの映画に関する論議だ。文脈があれば他国の作品を積極的に取り入れ、比較することも良い取り組みになる筈だ。
- ・チャンネルにとっては良いアクセントになるし、こういったインタビュー番組を蓄積して、5年10年のスパンで振り返る編成も面白いのではないかな。映画好きが加入しているのだから、洋画の編成も説明や必然性があれば歓迎されると思う。
- ・お互いに認め合って、かつ人間としても信頼し合っているのがわかる充実した対談で、NHKやWOWOWも羨んだのではないかな。今や映画は人材も題材もアジア内で行き来しているのが現実。こういう企画や映画が放送される余地や必然性は十分あると思う。
- ・3回も見直した。クリエイターがここまで手の内を話していいのかと、楽しみながらも心配になるほど濃い内容だった。収録はどのぐらいかかったのだろうか？

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・収録は約2時間で、完全版は翻訳の声をカットしただけ。アカデミー受賞後の2人の対談を改めて企画してみたい。
- ・この対談は『万引き家族』を当チャンネルで放送する際、既に地上波で放送された作品に付加価値をつけるために企画したものだった。結果として素晴らしい内容になり満足している。今後、洋画を編成する可能性については、基本的には日本映画を楽しんでもらうための切り口の1つとして考えている。あくまでも日本映画を楽しんでもらうために洋画を紹介するという姿勢で、洋画を積極的に放送することは考えていない。

## 7. 議題（2）報告事項

【時代劇専門チャンネル「最速独占！『神田松之丞講談会 in 大阪松竹座』について】  
テレビやラジオなど幅広く活躍する神田松之丞は、今演芸界で最もチケットがとれない人気講談師だ。今回は昨年10月に大阪松竹座で開催された独演会をまるまる放送した。演目は忠臣蔵の人気義士、堀部安兵衛の若き日から最期までを追う「安兵衛駆け付け」「安兵衛婿入り」「荒川十太夫」の3席。講談は初めてという忠臣蔵ファンでも、時代劇では描かれない堀部のエピソードが楽しめる内容である。講談師・松之丞の入門編として評判が良く、Twitter等で反響があった。また、コアなファンにとっても「襲名を控えた松之丞時代最後の放送」である点や、独演会をまるまる放送したことについて好意的に受け入れられた。日曜夜7時に放送したが、視聴率も良かった。

## 8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2020年5月19日火曜日15時より開催予定。